

「気品ある女性になるための心得50」

石川真理子著『女子の教養』より

素直に謝るということは、大人になってからの方が難しくなるようです。
思考も感受性も複雑になるためでしょう。
自我が強くなる分、素直になるのも難しくなります。

何かを行うときは、誰でも良かれと思ってするものです。

ところが、それが人から責められるような結果を導き出してしまうこともあります。
そんな時、先ず思うことは、「悪気はなかった」ということでしょう。

「私はこういうつもりだった。」
「そんな言い方しなくてもいいでしょう・・・？」

素直に謝ることができなかった時に、私の口から出た言葉です。

向かっていけば、相手もこちらに向かってきます。
そして、さらなる防衛のために、攻撃が始まることさえめずらしくありません。

「だいたいあなたがこんなふうだから・・・」とかえって相手を責めるのです。
なんと不毛なやりとりかと思えます。
そしてこのようなやりとりは、家族や親しい友人など近い関係ほど生じやすいのです。

「人を責める前に、立ち止まって己を省みてごらん」
という祖母の言葉が思い出されました。

「人を責めるのは落とし穴にはまるようなもの。
事態はさらに悪化します。
争いが起きた時点で、どこか自分にも非があるのだと心得て、
どんな些細なことでもいいから、いけなかったところを見つける努力をなさい。」

非の打ち所がないなんてことはありえないけれど、
もしもほんとうに一点の非もないと思われるのであれば、
そのつもりはないのに、相手の気分を害してしまったことを心から詫びなさい。」

そこまでへりくだらなくても、と思うものでしょう。

けれど自分を低くすることが、
かえって高みに立つことなのです。

【校長雑感】

今の世の中、人と人との関係が希薄化しているとともに、些細なことでこじれてしまう脆弱性も併せ持っているように感じます。

学校も同じで、生徒達は、そのような複雑な人間関係の中で、もまれながら日々成長を続けていかなければなりません。そんなときに大切なことは、やはりコミュニケーションだと思います。特に、「ありがとう」という感謝の言葉、「ごめんなさい」の謝罪の言葉は人間だけが持っている感情を表す言葉で、それ以外の動物たちにはありません。

今回は「女子の教養」という本からの出典ですが、男だから、女だからという性差に関わらず、人として大事なことだと感じましたので引用してみました。

朝晩冷え込みが厳しくなってきましたが、そんな時こそ“あたたかい”会話のぬくもりを感じたいものですね・・・